

生きがい



わたしは21歳のときに、結婚と同時に十和田市に生まれました。昭和38年、36歳のときに三本木病院（現市立中央病院）に勤めました。昭和60年に退職するまで看護助手や調理の仕事をしました。

寿大学に通ったきっかけは、平成12年に夫が亡くなり、毎日気持ちが悪く落ち込んでいたときに、受講していた知人のすすめがあったからです。

わたしは歴史に興味があったので、寿大学のクラブ活動では、「郷土史クラブ」に所属しました。

クラブでは主に、市立郷土館の展示品の見学や市文化財保護協会会員による講義を受けています。

クラブに加入した当時は、バスで移動し、郷土の文化施設、史跡など

生きがいを持つことは大きな幸せです。自分の好きなことややりたいことと、幸福感を得られるものを生きがいといいます。生きがいは夢や目標であったり、自分を活かせることや充実感を感じられることなどさまざまです。本市の各公民館では、たくさんの講座が開設され生涯学習の機会が設けられています。

今回は、中央公民館の寿大学「郷土史クラブ」で活動して10年目となる天間みゑさんに活動のきっかけなどについて伺いました。

天間 みゑさん（82歳）

訪ねるのが楽しみでしたが、最近バスを利用した活動がなくなり少し残念です。

悲しかった事は、平成14年、20歳で津軽に嫁いだ娘が53歳で亡くなったことです。そのときの思いを綴った随想や、みやこうたを平成16年度の寿大学文集「莞寿」に、娘の絵手紙と一緒に寄稿しました。今でも手元に置いて娘のことを懐かしく思い出しています。

今はクラブ活動を通して友達に会うことが楽しみで、明日が活動日だと思うと前日から心が踊ります。これからも友達を大切に、できる限り寿大学に通いたいと思います。



娘からの絵手紙



郷土史クラブの皆さん

みんなできえよう男女共同参画

女ひとと男ひと いきいきセミナーが
開催されました

11月20日から12月2日にかけて3回にわたり中央公民館で「女と男いきいきセミナー」が開催されました。このセミナーは、男女共同参画の普及啓発を目的に市が主催したもので「まちづくり」に欠かせない男女共同参画の視点「暴力で解決しない社会を」「共働きをするために夫婦で考えなければならぬこと」をテーマに開催されました。

参加者は、講師が市民活動で取り組むまちづくりや、家庭内暴力の現状などにならずながら「セミナーで学んだことをこれからの生活に役立てていきたい」と話していました。



笑顔のたえないセミナーでした

